

地球温暖化対策実施状況報告書

令和 4 年 7 月 26 日

名古屋市長 様

報告者 住 所 名古屋市中区錦三丁目23番18号ニューサカエビル7階
氏 名 サカエチカマチ株式会社
代表取締役社長 濱島 吉充 印

(代理者) 氏 名

(法人の場合は、所在地、名称及び代表者氏名)

市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例第100条第2項の規定により、地球温暖化対策の実施の状況について、次のとおり報告します。

工場等の名称	サカエチカマチ カブシキカイシャ サカエチカマチ株式会社		
工場等の所在地	名古屋市中区栄三丁目4番6号地先		
業種等	業 種	不動産業、物品賃貸業	
	業務部門における建築物の主たる用途	物販店	
事業の概要	地下街維持管理		
連絡先	担当部署	会社名・担当部署	サカエチカマチ株式会社 施設部
		住 所	〒460 - 0003 名古屋市中区錦三丁目23番18号ニューサカエビル7階
	担当者氏名	川嶋紘佑	
	電話番号等	電話番号	052-265-6392
		ファクシミリ番号	052-962-6062
		電子メールアドレス	k-kawashima@sakaechikamachi.co.jp
地球温暖化対策の実施の状況	別添のとおり		
工場等番号	※		

注1 連絡先には地球温暖化対策計画書の内容に関する担当部署名等を記入してください。

2 ※印のある欄は記入しないでください。

備考1 用紙の大きさは、日本産業規格A4とします。

備考2 氏名（法人にあってはその代表者の氏名）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあってはその代表者）が署名することができます。

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	サカエチカマチ株式会社		
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中区錦三丁目23番18号ニューサカエビル7階		
工場等の名称	サカエチカマチ株式会社		
工場等の所在地	名古屋市中区栄三丁目4番6号地先		
業種	不動産業、物品賃貸業		
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店		
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)		
事業の概要	地下街維持管理		
計画期間	平成31年4月1日	～	令和4年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和4年7月26日			～	令和4年10月24日
公表方法		掲示 閲覧	(場所)		
	○	ホーム ページ	(HPアドレス)	https://sakaechikamachi.co.jp	
		冊子	(冊子名・ 入手方法)		
		その他	(その他詳細)		
公表に係る問合せ先	サカエチカマチ 施設部 052-265-6382				

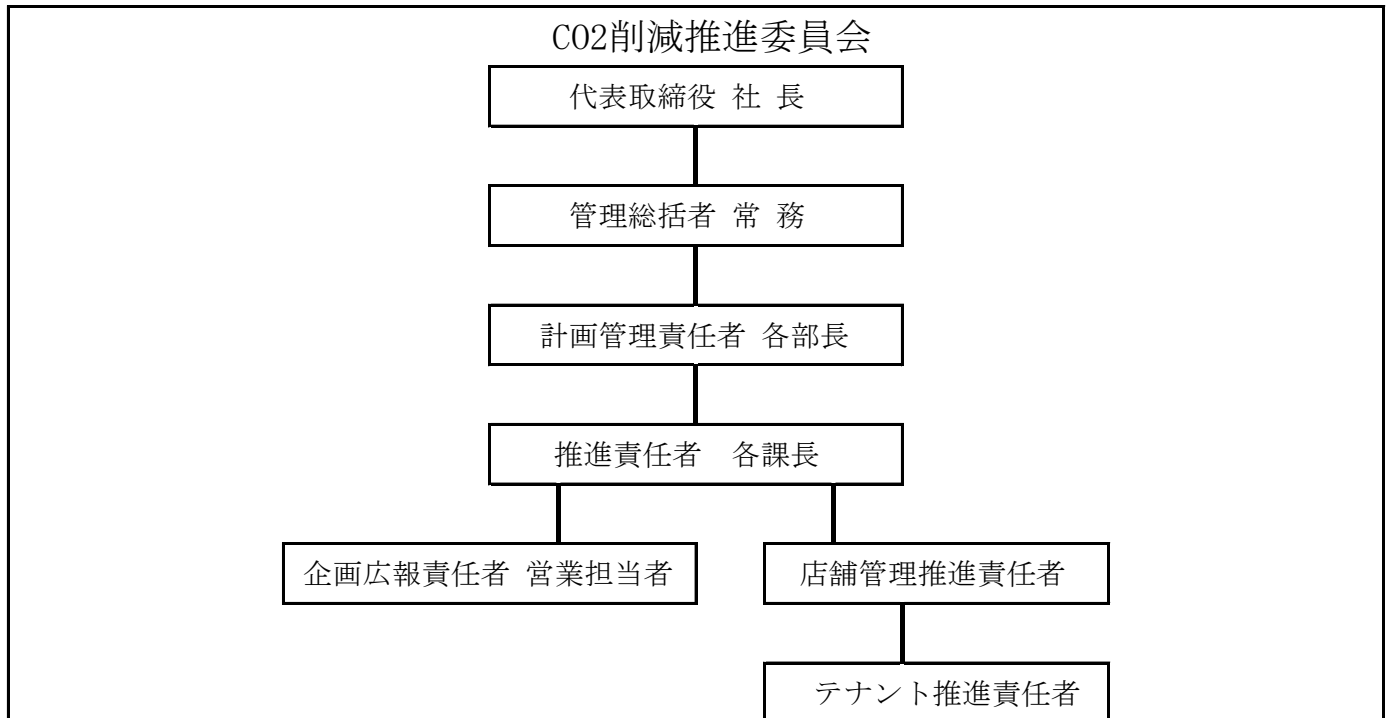
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

1. 省資源・省エネルギーの活動を推進します。
2. 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。
3. 従業員(各テナント含む)に対して環境教育を進め、社外に対しては環境情報の公開を進めます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,863	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガス 素換排 出量 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,863

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	平成 30 年度		令和 3 年度		令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度			
温室効果ガス 総排出量	3,158	t-CO ₂	3,063	t-CO ₂	3,197	t-CO ₂	2,774	t-CO ₂	2,863	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	▲ 1.2	%	12.1	%	9.3	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	平成 30 年度		令和 3 年度		令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度			
原単位あたりの 排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

新型コロナウイルスの影響で、テナント営業時間の短縮に伴い、空調器・排風機の運転時間及び冷房運転時間の見直しなどにより削減目標を大きく上回った。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践（冷暖房）	・冷房温度28℃、暖房温度20℃を徹底する。 ・冷暖房時と中間期の各ダンパを効率良く適切に開閉する。	店舗内環境及び空調データーを考慮し、適正な運転を行う。	各出入口の扉設置により夏場の外気流入が抑えられ地冷使用量は抑えられた。 冬場の温度が低かった為、ガス使用量が増えた。
省エネルギー・省資源の行動の実践（照明）	・使用しない箇所の時間帯には消灯を図る。 ・省エネタイプでない照明器具及びランプを順次取替える。		共用部通路の照明時間の変更を行い、消費電力を抑えることが、出来た。
省エネルギー・省資源の行動の実践（OA機器）	・OA機器のスイッチオフを徹底する。		待機時電源OFFシステム並びに、個々の節電意識が徹底出来た。
省エネルギー・省資源の行動の実践（廃棄物）	・紙類の発生統制とリサイクルの実施。	両面コピー・裏紙の再利用によりコピー用紙を削減する。	紙ベース資料をPCデーター化し、打合せ資料等紙類の削減を進めている。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 3 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 3 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> 各出入口に扉設置し外気流入を抑制し、通路温度センサーを活用し冷暖房の適正運転を実施。 各照明の調光システム並びに、個別制御による省エネ運用実施。 排出ゴミの分別計量を行いリサイクルに取り組んだ。 紙ベース資料をデータ化し紙類の発生を抑制した。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> 換気ガラの清掃、空調用フィルターの交換洗浄。
--

エネルギー使用量（原油換算）及びエネルギー起源二酸化炭素排出量算定表
 計画期間3年度目（令和3年度）

添付

燃料の使用	使用量		単位当たり発熱量		熱量	CO ₂ 排出係数		CO ₂ 排出量	
	①		②		①×②	③ (参考) ②×③×44/12		①×②×③×44/12 (都市ガスは①×③)	
	数量	単位	単位		GJ	t-C/GJ	単位	t-CO ₂	
原油(コンデンシートを除く)		kL	38.2	GJ/kL		0.0187	2.62	t-CO ₂ /kL	
コンデンシート(NGL)		kL	35.3	GJ/kL		0.0184	2.38	t-CO ₂ /kL	
ガソリン	工場等	kL	34.6	GJ/kL		0.0183	2.32	t-CO ₂ /kL	
	自動車等	kL	34.6	GJ/kL		0.0183	2.32	t-CO ₂ /kL	
ナフサ		kL	33.6	GJ/kL		0.0182	2.24	t-CO ₂ /kL	
灯油		kL	36.7	GJ/kL		0.0185	2.49	t-CO ₂ /kL	
軽油	工場等	kL	37.7	GJ/kL		0.0187	2.58	t-CO ₂ /kL	
	自動車等	kL	37.7	GJ/kL		0.0187	2.58	t-CO ₂ /kL	
A重油	工場等	1.0	kL	39.1	GJ/kL	39	0.0189	2.71	t-CO ₂ /kL
	自動車等		kL	39.1	GJ/kL		0.0189	2.71	t-CO ₂ /kL
B・C重油	工場等		kL	41.9	GJ/kL		0.0195	3.00	t-CO ₂ /kL
	自動車等		kL	41.9	GJ/kL		0.0195	3.00	t-CO ₂ /kL
石油アスファルト		t	40.9	GJ/t		0.0208	3.12	t-CO ₂ /t	
石油コークス		t	29.9	GJ/t		0.0254	2.78	t-CO ₂ /t	
液化石油ガス(LPG)	工場等		t	50.8	GJ/t		0.0161	3.00	t-CO ₂ /t
	自動車等		t	50.8	GJ/t		0.0161	3.00	t-CO ₂ /t
石油系炭化水素ガス		千Nm ³	44.9	GJ/千Nm ³		0.0142	2.34	t-CO ₂ /千Nm ³	
液化天然ガス(LNG)	工場等		t	54.6	GJ/t		0.0135	2.70	t-CO ₂ /t
	自動車等		t	54.6	GJ/t		0.0135	2.70	t-CO ₂ /t
天然ガス(液化天然ガスを除く)		千Nm ³	43.5	GJ/千Nm ³		0.0139	2.22	t-CO ₂ /千Nm ³	
原料炭		t	29.0	GJ/t		0.0245	2.61	t-CO ₂ /t	
一般炭		t	25.7	GJ/t		0.0247	2.33	t-CO ₂ /t	
無煙炭		t	26.9	GJ/t		0.0255	2.52	t-CO ₂ /t	
コークス		t	29.4	GJ/t		0.0294	3.17	t-CO ₂ /t	
コールタール		t	37.3	GJ/t		0.0209	2.86	t-CO ₂ /t	
コークス炉ガス		千Nm ³	21.1	GJ/千Nm ³		0.0110	0.85	t-CO ₂ /千Nm ³	
高炉ガス		千Nm ³	3.41	GJ/千Nm ³		0.0263	0.33	t-CO ₂ /千Nm ³	
転炉ガス		千Nm ³	8.41	GJ/千Nm ³		0.0384	1.18	t-CO ₂ /千Nm ³	
都市ガス(東邦ガス)	工場等	25.7	千Nm ³	45	GJ/千Nm ³	1,158	2.29	t-CO ₂ /千Nm ³	
	自動車等		千Nm ³	45	GJ/千Nm ³		2.29	t-CO ₂ /千Nm ³	
その他燃料									
その他燃料									
小計					1,197			62	
他人から供給された 電気及び熱の使用	使用量		単位当たり発熱量		熱量	CO ₂ 排出係数		CO ₂ 排出量	
	④		⑤		④×⑤	⑥		④×⑥	
	数量	単位	単位		GJ		単位	t-CO ₂	
電気事業者 (中部電力)	昼間	4,066.4	千kWh	9.97	GJ/千kWh	40,542	0.472	t-CO ₂ /千kWh	
	夜間	791.2	千kWh	9.28	GJ/千kWh	7,342	0.472	t-CO ₂ /千kWh	
その他電気事業者 (事業者名)	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh			t-CO ₂ /千kWh	
	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh			t-CO ₂ /千kWh	
その他電気事業者 (事業者名)	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh			t-CO ₂ /千kWh	
	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh			t-CO ₂ /千kWh	
その他電気事業者 (事業者名)	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh			t-CO ₂ /千kWh	
	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh			t-CO ₂ /千kWh	
上記以外の買電			千kWh	9.76	GJ/千kWh			t-CO ₂ /千kWh	
産業用蒸気			GJ	1.02	GJ/GJ		0.060	t-CO ₂ /GJ	
産業用以外の蒸気			GJ	1.36	GJ/GJ		0.057	t-CO ₂ /GJ	
温水			GJ	1.36	GJ/GJ		0.057	t-CO ₂ /GJ	
冷水		8,921	GJ	1.36	GJ/GJ	12,133	0.057	t-CO ₂ /GJ	
上記以外の熱			GJ		GJ/GJ			t-CO ₂ /GJ	
小計					60,017			2,801	
合計					⑦ 61,214			⑧ 2,863	
自ら生成した熱の他者への供給※			GJ		GJ/GJ			t-CO ₂ /GJ	
自ら生成した電気他者への供給※			千kWh		GJ/千kWh			t-CO ₂ /千kWh	
合計					⑨			⑩	
原油換算エネルギー使用量 (⑦-⑨) × 0.0258					1,579			kL	
エネルギー起源二酸化炭素排出量 ⑧-⑩					2,863			t-CO ₂	

※燃料を使用して生成した熱及び電気を他者へ供給した場合に限る。自然エネルギー等により生成した熱及び電気を他者へ供給した場合は含まれない。

【事業所の規模】	延床面積	14,307.70	m ²
----------	------	-----------	----------------

【自動車等の数】

① 単位（台）

② その他の輸送機械

燃料の種類	乗用	貨物
ガソリン		
軽油		
LPG		
天然ガス		
電気		

種別	数	単位
鉄道		両
船舶		隻
航空機		機

（以下は該当する場合に記入して下さい）

【排出量抑制目標に原単位排出量を用いる場合】

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

原単位の指標	数量	単位

【みなし排出量の算定に用いたクレジット等の温室効果ガス換算量】

クレジット等の種類	創出地	購入量	換算式	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

区分	再生可能エネルギー等の種類	他のものへの供給量	換算式	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電気		kWh	× 0.000472	t-CO ₂
熱		GJ		t-CO ₂